

2025 年 期（J1）第 1 回ディスカッションテーマ

日時：2026/1/24（土）13:30～16:30

テーマⅠ：監査報酬

皆さんは公認会計士試験合格者としてこれからクライアントに様々なサービスを提供していくことになります。公認会計士が提供するサービスには監査、税務、アドバイザリー、コンサルティング等様々なものがあります。

そのうち監査業務について、JICPA が公表している「監査実施状況調査（2023 年度）」によると、平均単価実績は 1 時間当たり 12,296 円となっています。また、監査報酬は「監査報酬＝時間単価×時間」で算定されます。

監査チームは通常、報酬増額の交渉をすることが多いですが、報酬増額に関する肯定的な意見、否定的な意見を話し合い、それぞれの立場でまとめてください。

・監査人としての立場

・クライアントとしての立場

テーマⅡ：報酬交渉（ロールプレイング）

あなたは監査法人のパートナーで、監査クライアント A 社と来期の監査報酬決定のための話し合いをすることになりました。

どのように話せば希望する報酬で妥結できるのか、班で話し合い、実際にクライアントと報酬交渉をしてみましょう。

次の 2 点に繋がると思われる項目を挙げ、交渉してみてください。

① 単価アップ（付加価値増加）

② 工数増加（業務機会増加）

交渉後、チームの報酬がいくらになったかを全体で発表します。

【前提】

・前期の監査報酬は 40,000 千円（1 時間当たり単価 20,000 円、工数 2,000 時間）とする。A 社の財務担当取締役は前期と同額で十分と考えています。むしろ每期同じことをするはずであるため、効率化による工数減によって報酬は減るはずだと考えています。

・監査法人では近年 IT 及び AI 投資、人材教育などに力を入れており、報酬アップが必須とされています。

・A 社に関する情報

○A 社は名古屋市に本社を置く上場会社で連結財務諸表作成会社です。製造業を営んでおり、子会社

は国内外に 20 拠点あります。売上の 50%は海外向けの販売であり、今後 5 年間で海外向け売上を 70%まで増加させる中期経営計画を公表しています。また、グローバル化に伴い、IFRS（国際財務報告基準）を導入することを検討しています。

○会社の業績はここ数年悪化傾向にあり、資金繰りも厳しい状況にあります。特に東南アジア地域に拠点を置く子会社の販売不振が大きな打撃を与えており、当該地域の需要も縮小していくものと会社は考えています。

○来期から全社を挙げた新規事業を立ち上げ予定です。

○経理体制が整っておらず、過去エラーが多く監査人の指摘により改善されるような状況が多くありました。

○経理担当者の退職が多く、社内の理解に乏しい担当者が多いです。

○DX 化に対応するため、新基幹システムの導入プロジェクトが進行しています。

○会社は昨今のサイバー攻撃によるシステム障害等の事案の頻発に鑑み、サイバーセキュリティ対策が必要と考えています。

※上記前提に記載のない項目であっても、昨今の日本を取り巻く経済環境を踏まえた理由や、一定の仮定に基づいた理由でもその理由が合理的であれば項目に加えて構いません。

（事業環境の変化、会計基準の変更等）

※単価アップ要因は 1 つにつき 500 円、工数増加要因は 1 つにつき 50 時間増加するものとします。